



妊娠・出産におけるブランク

金沢大学附属病院 血液内科
松浦 絵里香

学生時代から、女医会や「女性医師の生き方セミナー」などに参加させていただき、仕事と育児をどのように両立させていくかについて考える機会が、これまでに何度かありました。子供を産む時期はいつがよいのか、先輩の女医さん方は、仕事と育児をどのように両立されておられるのか、についてお話を伺う機会もありました。

多くの意見としては、子供を産むタイミングに関して、正解はない。そして、子供を産む時期が医師として何年目であったかに関わらず、それぞれ様々な悩みを持ち、様々な葛藤が常にある、ということがわかりました。また、女性が妊娠できる期間が限られていることから、子供を産む時期は早いに越したことはない、という意見も聞かれました。

私は、しっかりと医師としてのキャリアも積みたいが、子育てもある程度しっかりとやりたいという気持ちがあり、子供を産む時期について悩んでいました。色々考えた結果、授かったときがタイミングと考えることにしました。

最初に妊娠したのは、研修医2年目のときでした。妊娠初期の出血のため約1ヶ月の自宅安静が必要でしたが、その後は順調な妊娠経過をたどっていくはずでした。しかし、その子は死産となってしまいました。しばらくは精神的に不安定な時期が続き、仕事を続けられるのかもわからない状態でしたが、産後休暇が終わり、何とか仕事復帰しました。しばらくして次の子を授かり、精神的には少し落ち着きましたが、この時は切迫早産のため、約3ヶ月の入院生活となりました。結局、1人目の子を妊娠してから2人目の出産後、仕事復帰するまでの約1年半、ほとんどまともに仕事ができない期間ができてしまいました。妊娠中もほとんど変わらず働ける人も多いのかもしれませんが、皆が順調にいく訳ではなく、妊娠・出産によって、想定していたよりもはるかに大きなブランクができてしまう可能性があるということを、身をもって経験しました。

現在は、仕事復帰してから約1年が経ち、今年度から医師として5年目となりました。本来は、まだまだがむしゃらに仕事をして、経験を積んでいく時期だと思います。職場での配慮、実家や夫のサポートはありますが、やはり独身時代と比べると、仕事にかけられる時間は限られています。また、しっかりと経験を積むべき時期に、約1年半のブランクができてしまったことは、仕事復帰する際に大きく影響しました。忘れてしまった知識を取り戻しながら、専門分野についての新たな知識をつけていかなければならない。一方で、慣れない育児とも両立していかなければならない。復帰直後から比べると、少しずつ仕事のペースはつかめてきましたが、現在も試行錯誤しながらやっています。

これだけのブランクができてしまうのであれば、もう少ししっかりと経験を積んだ後に妊娠・出産を考えた方がよかったのではないかと、そう考えることもしばしばありますが、時間を戻すことはできません。また、妊娠中にこれほど働けなくなることは予想できませんでした。今からできることは、現在の状況を受け入れ、少しずつこのブランクを取り戻していくこと。時間がかかると思いますが、焦らずゆっくと経験を積み、一人前の医師になっていければと思っています。